



平成21年2月9日

各 位

会 社 名 リバーエレクトック株式会社
 代表者名 代表取締役社長 若尾 富士男
 (JASDAQ・コード番号6666)
 問合せ先 取締役総務本部長 大塩 久男
 (TEL 0551-22-1211)

平成21年3月期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成20年11月10日に公表した平成21年3月期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正

(金額の単位: 百万円)

平成21年3月期通期 業績予想の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	6,770	△680	△672	△834	△111円39銭
今回修正予想(B)	5,875	△878	△887	△1,348	△180円03銭
増減額(B-A)	△895	△197	△214	△514	—
増減率(%)	△13.2	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	9,287	992	998	588	78円51銭

2. 個別業績予想の修正

(金額の単位: 百万円)

平成21年3月期通期 業績予想の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	6,274	△77	△68	△89	△11円90銭
今回修正予想(B)	5,459	△101	△100	△247	△32円99銭
増減額(B-A)	△814	△24	△32	△158	—
増減率(%)	△13.0	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	8,567	832	843	489	65円36銭

3. 修正の理由

(1) 連結業績予想

第2四半期以降、販売ターゲットである無線モジュール、携帯電話向けを中心に主力製品である超小型水晶製品の拡販に努めましたが、世界的な景気後退を受けて、主要得意先によるこれまでにない急速な生産調整及び水晶製品市場の価格競争の激化により受注が大幅に減少しました。今後の見通しにつきましても、世界的金融危機による景気後退が实体经济に及ぼす影響が予想以上に大きく、依然として予断を許さない状況が続いております。当社が主とする水晶製品市場においても、エレクトロニクス業界の大規模な生産と在庫調整により大幅な受注の落ち込みが続いており、それに加えて市場競争の激化から販売価格の下落が避けられない厳しい状況が続くものと予想されます。

当社グループとしましても、引き続き、提案型営業力の強化、生産設備の稼働効率の向上及び固定費圧縮等のコスト削減に努めてまいりますが、大幅な売上高の減少による固定費負担の増加を吸収できない状況にあり、前回公表の業績予想を下回る見通しとなりましたのでこれを修正いたします。

売上高においては、販売ターゲットである携帯電話・無線モジュール向け製品の落ち込みを補うため、拡販に鋭意努力しておりますが、現状の景気低迷下において短期間に売上高が回復する見込みは困難な状況であり、前回予想に比べ13.2%減の5,875百万円となる見込みであります。

損益面においては、人件費を中心とした経費削減に取り組んでおりますが、売上高減少の影響が大きく、営業損失878百万円、経常損失887百万円、当期純損失1,348百万円となる見込みであります。

(2) 個別業績予想

通期個別業績予想につきましても、上記と同様の要因であります。なお、連結との利益の増減幅の差につきましては、当社は、水晶製品は全て連結子会社から仕入れを行っており、当社製品仕入価格の低下に対して子会社の原価縮減が追いつかず当社の利益に比して子会社の利益の減少幅が大きくなっております。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により、上記予想数値と異なる可能性があります。

以上